

# 令和 4 年度病院構造改革推進方策実施状況 自己点検・評価の結果（案）

令和 5 年 9 月  
兵庫県病院局

# 令和4年度収支決算（案）（13病院計、単位：億円）

区 分		R3決算 ①	R4当初予算 ②	R4最終予算 ③	R4決算 ④	対前年 (④-①)	対最終予算 (④-③)
収 益 的 収 支	経常収益 (A)	1,492	1,576	1,608	1,611	119	3
	(うち一般会計繰入金) (B)	159	162	164	164	5	0
	経常費用 (C)	1,463	1,617	1,659	1,641	178	△ 18
	当期経常損益 (D = A - C)	28	△ 41	△ 51	△ 30	△ 58	21
	特別損益 (E)	3	△ 49	△ 42	△ 56	△ 59	△ 14
	当期純損益 (F = D + E)	32	△ 90	△ 93	△ 85	△ 117	8
	資金収支 (G)	96	22	11	32	△ 64	21
資 本 的 収 支	収入 (H)	344	206	180	201	△ 143	21
	(うち一般会計繰入金) (I)	71	72	72	72	1	0
	支出 (J)	389	240	211	236	△ 153	25
	差引(資金収支) (K = H - J)	△ 45	△ 34	△ 31	△ 35	10	△ 4
一般会計繰入金の合計 (B + I)	230	234	236	236	6	0	
総資金収支 (L = G + K)	50	△ 11	△ 20	△ 3	△ 53	17	
内部留保資金残高 (M = L + M[前年度])	106	86	86	103	△ 3	17	

- ◆ 新型コロナウイルス感染症による病院経営への影響については、診療報酬の増額やコロナ患者受入れに係る病床確保料など、新型コロナウイルス感染症対応のための臨時的な収益により減収分は概ね補填されたが、はりま姫路総合医療センターの開院に伴う患者調整等により一時的に収支が悪化し、**経常損益は30億円の赤字**となった。
- ◆ 旧姫路循環器病センターに係る特別償却や旧柏原病院建物撤去費用を特別損失として計上したことにより、**純損益は85億円の赤字**となった。

## 各病院ごとの経常損益・純損益（単位：百万円）

区 分		直 営											指定管理			13病院計
		総 合						専 門					災害	リハ中	リハ西	
		尼崎	西宮	加古川	姫路	丹波	淡路	こころ	こども	がん	粒子線	神戸陽子				
R3決算	経常損益	2,913	△20	1,828	△245	△267	727	△245	△136	△491	△777	△439	0 (85)	1 (57)	0 (△7)	2,848 (135)
	純損益	3,014	202	1,991	△19	△1,314	1,054	△141	△93	△289	△796	△422	0 (85)	0 (57)	0 (△7)	3,186 (135)
R4決算	経常損益	1,149	△144	1,356	△4,163	100	90	170	△49	△35	△955	△494	0 (6)	0 (87)	0 (△58)	△2,976 (35)
	純損益	1,159	△131	1,370	△7,477	△2,190	87	175	△55	△30	△955	△494	0 (6)	0 (87)	0 (△58)	△8,540 (35)

※1 （ ）書きは指定管理病院の決算を記載

※2 合計数については、百万円未満を四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

- ◆ 病院構造改革を着実に推進するため、新公立病院改革ガイドラインに基づき、第4次病院構造改革推進方策の単年度の実施計画を定め、その実施状況について、毎年度、点検及び評価を行うこととしている。令和4年度の実施状況の自己点検及び評価の結果は下記のとおりである。

## 1 概要

- (1) 目標：新型コロナウイルス感染症等の影響があったものの、「(概ね)計画通り実施」の割合は7割を上回り、「計画を下回った」目標は0件となった。

区分	○(概ね)計画通り実施	△計画をやや下回った	▲計画を下回った	合計
目標数	22 (75.9%)	7 (24.1%)	0 (0.0%)	29

- (2) 取組項目：新型コロナウイルス感染症等の影響により、計画を下回った取組項目もあったものの、「計画を上回る実施」及び「(概ね)計画通り実施」の割合は、8割を上回った。

区分	◎計画を上回る実施		○(概ね)計画通り実施	△計画をやや下回った		▲計画を下回った		合計
	うち〇件			うち〇件		うち〇件		
項目数	101 (18.4%)	28	356 (64.7%)	46 (8.4%)	22	47 (8.5%)	20	550
	457 (83.1%)			93 (16.9%)				

### 評価の考え方

#### 【目標】

評価	考え方
○(概ね)計画通り実施	計画通り実施(取組項目の達成が80%以上) ※右記【取組項目】のうち、「◎」「○」が該当
△計画をやや下回った	一部遅滞・未実施(同60%以上80%未満)
▲計画を下回った	未実施(同60%未満)

#### 【取組項目】

評価	考え方
◎計画を上回る実施	計画以上実施(対計画比120%以上)
○(概ね)計画通り実施	計画通り実施(同80%以上120%未満)
△計画をやや下回った	一部遅滞・未実施(同60%以上80%未満)
▲計画を下回った	未実施(同60%未満)

## (3) 令和元年度～令和4年度の比較

## 【目標】

年度	○（概ね）計画通り実施	△計画をやや下回った	▲計画を下回った	項目数
R1	24 (85.7%)	3 (10.7%)	1 (3.6%)	28
R2	15 (51.7%)	9 (31.0%)	5 (17.2%)	29 ※新型コロナ 対応を追加
R3	19 (65.5%)	9 (31.0%)	1 (3.4%)	
R4	22 (75.9%)	7 (24.1%)	0 (0.0%)	

## 【取組項目】

年度	◎計画を上回る実施		○（概ね）計画 通り実施	△計画をやや下回った		▲計画を下回った		項目数
		うち〇ヶ			うち〇ヶ		うち〇ヶ	
R1	56 (11.0%)	－	382 (75.2%)	45 (8.9%)	－	25 (4.9%)	－	508
	438 (86.2%)			70 (13.8%)				
R2	36 (6.9%)	10	308 (59.0%)	65 (12.5%)	52	113 (21.6%)	102	522
	344 (65.9%)			178 (34.1%)				
R3	62 (11.8%)	19	356 (67.6%)	51 (9.7%)	33	58 (11.0%)	47	527
	418 (79.3%)			109 (20.7%)				
R4	101 (18.4%)	28	356 (64.7%)	46 (8.4%)	22	47 (8.5%)	20	550
	457 (83.1%)			93 (16.9%)				

## 2 評価一覧

※評価が○の項目は（概ね）計画通り実施できたものであり、増減理由の確認対象外のため、「うちコロナを理由」の記述はなし

No.	目標	実施状況
1	★緊急に対応すべき事案（新型コロナウイルス対応）	○
2	がん医療	○
3	循環器疾患医療	△
4	糖尿病医療	△
5	精神医療	△
6	救急・災害医療	△
7	小児・周産期医療	○
8	リハビリテーション医療	○
9	その他の政策医療	△
10	統合再編・建替整備	△
11	診療機能の効率化	○
12	研究機能の充実	○
13	地域医療連携の推進	○
14	医療安全対策等の推進	○
15	患者サービスの向上	○

全項目数	取組項目						○以上の割合
	◎	○	△	▲	○以上の割合		
	うちコロナを理由		うちコロナを理由	うちコロナを理由			
3	0	3	0	0	0	100.0%	
83	18	52	7	6	2	84.3%	
51	13	24	8	6	1	72.5%	
10	1	6	2	1	1	70.0%	
24	6	11	5	2	0	70.8%	
40	12	19	5	4	3	77.5%	
26	7	15	3	1	0	84.6%	
25	6	17	2	0	0	92.0%	
33	7	18	4	4	0	75.8%	
7	0	5	2	0	0	71.4%	
5	0	5	0	0	0	100.0%	
20	7	9	1	3	0	80.0%	
64	16	37	4	7	4	82.8%	
10	0	9	0	1	1	90.0%	
14	1	11	1	1	1	85.7%	

No.	目標	実施状況
16	医療の信頼性の向上	○
17	県民等への情報発信の推進	△
18	経営目標の設定と持続的な経営の取組	○
19	患者の受入れ促進等	○
20	診療機能に見合う収益の確保等	○
21	その他の収益の確保	○
22	費用の抑制	○
23	効果的・効率的な組織・人員体制の整備	○
24	医師確保対策の推進	○
25	看護師確保対策の推進	○
26	専門人材の充実・確保と人材育成の取組	○
27	働きやすい職場づくり	○
28	経営形態の検討	○
29	安定的な地域医療の提供	○
合 計		○ : 22 △ : 7 ▲ : 0

全項目数	取組項目							○以上の割合
	◎	○	△	▲	理由	理由	理由	
5	0	5	0	0	-	-	100.0%	
41	7	25	0	9	1	5	78.0%	
7	0	7	0	0	-	-	100.0%	
12	0	12	0	0	-	-	100.0%	
11	0	11	0	0	-	-	100.0%	
6	0	6	0	0	-	-	100.0%	
16	0	14	2	0	-	-	87.5%	
2	0	2	0	0	-	-	100.0%	
11	0	10	0	1	-	1	90.9%	
8	0	8	0	0	-	-	100.0%	
10	0	9	0	1	-	1	90.0%	
4	0	4	0	0	-	-	100.0%	
1	0	1	0	0	-	-	100.0%	
1	0	1	0	0	-	-	100.0%	
550	101	356	46	22	47	20	83.1%	
	18.4%	64.7%	8.4%	-	8.5%	-		

# ★緊急に対応すべき事案（新型コロナウイルス対応）

資料2 P1～3

目標	評価	説明
<p>県民の命を守る最後の砦としての使命を果たすべく、フェーズに応じた新型コロナウイルス感染症患者対応に、収束局面を迎えるまで全力で取り組む。「新型コロナウイルス感染症拠点病院」である加古川医療センター、「新型コロナウイルス感染症重症等特定病院」である尼崎総合医療センターを中心に、重症者対策の強化を図る。</p> <p>また、第二種感染症指定医療機関の指定を受けている丹波医療センター、淡路医療センターをはじめ、その他の病院でも地域の医療体制の状況等を踏まえ、患者受入等を実施する。</p> <p>その他、新型コロナウイルス感染症対策の課題等については今後十分に検証し、それらを基に病院運営における必要な見直しを行っていく。</p>	○	<p>一般病棟の転用により病床を確保し、積極的に患者を受け入れる等、新型コロナウイルス対応に全力で取り組んだ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※○以上の項目/全取組項目 3/3（100.0%）</p> </div>

## 【実施状況（主なもの）】

取組項目	実施状況
病床確保・受入体制の維持	◆ はりま姫路総合医療センター、がんセンターにおいて、新型コロナウイルス感染症病床を新たに確保したほか、各病院で積極的に患者を受入
整備・計画中の病院に係る新型コロナウイルス感染症対策	◆ はりま姫路総合医療センターで令和4年7月より感染患者対応病室運用開始する等、感染拡大時を想定し、必要な整備を各新病院の設計に反映

【参考】◆ 県立病院の延入院患者数は**90,455人**（R2.3～R5.5）

◆ 県内延入院患者数のうち県立病院の受入れ割合は**14.7%**（R2.3～R5.5）

# I より良質な医療の提供

## 項目1 診療機能の高度化 (1) がん医療

資料2 P4～8

目標	評価	説明
がんセンター等は、国及び県指定がん診療拠点病院として高度で専門的な集学的治療を実施する。また、こども病院は、小児がん拠点病院として集学的治療を実施するほか、神戸陽子線センターと連携した陽子線治療を実施する。更に、粒子線医療センターは、他の粒子線治療施設で対応困難な「肝臓・膵臓・頭頸部」がん患者への取り組みを推進する。	○	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、一部項目で計画を下回った病院もあったが、がん手術件数や外来化学療法の件数等が増加しており、概ね計画どおりに実施した。</p> <p>※○以上の項目/全取組項目 70/83 (84.3%)</p>

### 【実施状況 (主なもの)】

計画を上回ったもの (◎又は○)			計画を下回ったもの (▲又は△)			
項目	病院	計画 → 実績	項目	病院	計画 → 実績	主な理由 (※)
がん手術総件数	がん	2,050件 → 2,205件	緩和ケア研修会の出席者数	がん	12人 → 9人	【コ】感染拡大第8波期間中に実施したことによる減
外来化学療法件数	淡路	3,300件 → 4,067件	遺伝子パネル検査実施件数	こども	15人 → 8人	【コ】感染拡大による受診控え
	加古川	2,808件 → 3,565件				
	姫路 こども	1,845件 → 2,388件 180件 → 262件				
粒子線治療患者における「肝臓・膵臓・頭頸部がん」患者の割合	粒子線	34.9% → 42.4%	内視鏡下手術用支援機器 (ダヴィンチ、ヒトリ) による手術件数	姫路	100件 → 26件	開院後の人材育成や手術室の運用安定化に時間を要したことによる低実績

※ 新型コロナウイルス感染症の影響によるものには【コ】と記載 (以降同様)

# I より良質な医療の提供

## 項目1 診療機能の高度化 (2) 循環器疾患医療

資料2 P9~11

目標	評価	説明
<p>はりま姫路総合医療センター等は心疾患、脳血管疾患に対する高度専門医療及び急性期リハビリテーション医療を提供する。</p> <p>また、尼崎総合医療センター及びはりま姫路総合医療センターは、ハイブリッド手術システム等を活用した最新治療を提供する。</p>	△	<p>新型コロナウイルス感染症の影響等により、複数項目の手術・治療法において計画を下回った。</p> <p>一方で、大動脈瘤ステント術や経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)の件数等、計画を上回った項目もあった。</p> <p>※○以上の項目/全取組項目 37/51 (72.5%)</p>

### 【実施状況 (主なもの)】

計画を上回ったもの (◎又は○)			計画を下回ったもの (▲又は△)			
項目	病院	計画 → 実績	項目	病院	計画 → 実績	主な理由
大動脈瘤ステント術の件数	姫路	61件 → 119件	開心術の件数	淡路	100件 → 71件	【コ】感染患者受入れによる入院・手術制限
急性期リハの件数 (脳血管疾患)	尼崎 丹波 淡路	34,254 → 42,635件 9,000 → 18,218件 12,100 → 13,683件	開頭術の件数	加古川	40件 → 16件	【コ】一般患者の受入制限
経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVI) の件数	尼崎 姫路	60件 → 84件 69件 → 87件	急性期リハの件数 (心疾患)	西宮	1,947件 → 1,321件	【コ】心疾患リハ対象の入院患者数減

# I より良質な医療の提供

## 項目 1 診療機能の高度化 (3) 糖尿病医療

資料 2 P12

目標	評価	説明
<p>尼崎総合医療センター等は、地域の医療連携体制における役割を踏まえた医療を提供するほか、無治療糖尿病患者や重篤な合併症を有する糖尿病患者の早期診断・治療のため地域の医療機関との連携体制の構築に取り組む。</p>	△	<p>新型コロナウイルス感染症の影響等により、全体では計画値を下回ったが、新規入院患者数が計画値を上回った病院もあった。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※○以上の項目/全取組項目 7/10 (70.0%)</p> </div>

### 【実施状況 (主なもの)】

計画を上回ったもの (◎又は○)			計画を下回ったもの (▲又は△)			
項目	病院	計画 → 実績	項目	病院	計画 → 実績	主な理由
新規入院患者数	西宮 淡路	210人 → 212人 10人 → 15人	新規入院患者数	加古川	196人 → 152人	【コ】糖尿病教育入院の実患者減少等による減
			糖尿病教育入院の実患者数	加古川	107人 → 22人	【コ】一般患者の受入制限による減
			同上	姫路	97人 → 63人	外来へのシフト等、治療方法の変化に伴う減

# I より良質な医療の提供

## 項目 1 診療機能の高度化 (4) 精神医療

資料 3 P13~15

目標	評価	説明
<p>ひょうごこころの医療センターにおいて、児童思春期精神疾患、救急医療、アルコール依存症等の専門医療を充実するとともに長期入院患者等の退院促進を図る。</p> <p>また、認知症疾患医療センター設置病院は鑑別診断を適切に行う。</p>	△	<p>新型コロナウイルス感染症の影響等により、退院支援に関する項目等において回数や人数を制限し、全体的には計画値を下回った。</p> <p>一方で、こころの医療センターの精神科救急医療センター入院患者数やアルコール依存症の入院患者数等、計画値が上回った項目もあった。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>※○以上の項目/全取組項目 17/24 (70.8%)</p> </div>

### 【実施状況 (主なもの)】

計画を上回ったもの (◎又は○)			計画を下回ったもの (▲又は△)			
項目	病院	計画 → 実績	項目	病院	計画 → 実績	主な理由
精神疾患 新規入院患者数	淡路 こころ	100人 → 110人 850人 → 1,140人	精神疾患 新規入院患者数	姫路	112人 → 35人	平均在院日数が計画より長期化したことによる減
救急医療センター 入院患者数	こころ	200人 → 593人	退院支援委員会の 開催回数	こころ	168回 → 90回	検討対象となる長期入院患者数減に伴う開催回数の減
アルコール依存症治療の1日あたりの 入院患者数	こころ	20.5人 → 26.0人	心理教育への 患者延参加数	こころ	505人 → 335人	【コ】院内感染患者発生により、プログラムを一部中止・参加人数を制限

# I より良質な医療の提供

## 項目1 診療機能の高度化 (5) 救急・災害医療

資料2 P16~18

目標	評価	説明
<p>救命救急センターや2次救急輪番病院については、地域の医療機関や消防機関と連携して、圏域の救急医療を確保する。</p> <p>災害医療センターにおいては、兵庫県全域の救急・災害医療の教育拠点としての役割も担う。</p>	△	<p>新型コロナウイルス感染症の影響等で、ドクターカー出動件数等が計画を下回った。</p> <p>一方で、救急車搬送患者数、重篤患者数は、全体的に計画値を上回った。</p> <p>※○以上の項目/全取組項目 31/40 (77.5%)</p>

### 【実施状況（主なもの）】

計画を上回ったもの（◎又は○）			計画を下回ったもの（▲又は△）			
項目	病院	計画 → 実績	項目	病院	計画 → 実績	主な理由
救急車搬送患者数	西宮 加古川 姫路 丹波	3,700人 → 4,581人 1,899人 → 2,668人 3,943人 → 5,537人 2,500人 → 3,211人	救急車搬送患者数	災害	1,450人 → 1,054人	【コ】感染拡大緩和により、受入制限を行っていた他の医療機関からの一般患者受入れ数減
救急車搬送患者数 うち重篤患者数	加古川 姫路 淡路	834人 → 1,061人 1,429人 → 1,850人 420人 → 633人	ドクターヘリ 搬送患者数	加古川	564人 → 403人	【コ】一般患者の受入制限
DMA T 隊員養成 研修実施回数及び 参加者数	災害	5回 → 9回 125人 → 242人	ドクターカー 出動件数	西宮	643件 → 488件	【コ】感染（疑い）患者の影響により、出動要請に対応できない事例発生

# I より良質な医療の提供

## 項目1 診療機能の高度化 (6) 小児・周産期医療

資料2 P19~20

目標	評価	説明
<p>小児救命救急センター及び小児中核病院である尼崎総合医療センター及びこども病院を中心として、小児救急医療を提供する。</p> <p>総合周産期母子医療センター、地域周産期母子医療センターは、地域の産科医療機関や消防機関と連携して、役割に応じた周産期医療を適切に提供する。</p>	○	<p>診療体制等の影響により、一部項目で計画値を下回ったが、全体を通して概ね計画通りに実施した。</p> <p>特に、小児の救急車搬送患者数は多くの病院で積極的な受入れを行ったことで、全体的に計画を上回った。</p> <p>※○以上の項目/全取組項目 22/26 (84.6%)</p>

### 【実施状況（主なもの）】

計画を上回ったもの（◎又は○）			計画を下回ったもの（▲又は△）			
項目	病院	計画 → 実績	項目	病院	計画 → 実績	主な理由
小児の救急車搬送患者数	姫路 丹波 淡路 こども	108人 → 194人 200人 → 291人 90人 → 194人 1,400人 → 2,467人	ハイリスク妊娠数	姫路	10人 → 2人	移転に伴い、新たな連携病院探しに時間を要したことによる計画未達
2,500g未満の新生児実入院患者数	尼崎 こども	211人 → 225人 230人 → 241人	母体搬送受入数	こども	170人 → 114人	適応症例の減
新生児の搬送受入総数	尼崎	58人 → 72人	院内助産の実施件数	淡路	10件 → 7件	対象患者の減

# I より良質な医療の提供

## 項目1 診療機能の高度化 (7) リハビリテーション医療

資料2 P21~22

目標	評価	説明
<p>全県の中核施設として、リハビリテーション中央病院において、ロボットリハビリテーションを推進し、また、リハビリテーション西播磨病院において神経難病リハビリテーションを適切に提供する。</p> <p>また、急性期病院において、早期機能回復を図るため、リハビリテーションの充実を図る。</p>	○	<p>ロボット機器を用いたリハビリテーションの実施患者数やスポーツ医学診療センター患者数等は計画を大きく上回ったほか、摂食・嚥下支援センターの入院・外来患者数が昨年度を上回る等、全体を通して概ね計画通りに実施した。</p> <p>※○以上の項目/全取組項目 23/25 (92.0%)</p>

### 【実施状況（主なもの）】

計画を上回ったもの（◎又は○）			計画を下回ったもの（▲又は△）			
項目	病院	計画 → 実績	項目	病院	計画 → 実績	主な理由
ロボット機器を用いたリハビリテーションの実施患者数	リ八中	52人 → 136人	リハビリテーション実施単位の向上	西宮 がん	65,588→49,587単位 20,000→15,403単位	リハビリ職員数（稼働）の減等
スポーツ医学診療センター患者数	リ八中	入院：8,400 → 12,390人 外来：3,888 → 6,799人				
摂食・嚥下支援センターの本格稼働による入院及び外来患者数の増加	リ八西	【計画】患者数の増加 入院：(R3)0人→2人 外来：(R3)11人→24人				

# I より良質な医療の提供

## 項目 1 診療機能の高度化 (8) その他の政策医療

資料 2 P23~25

目標	評価	説明
結核・感染症医療やアレルギー疾患医療、透析医療等の政策医療について、各病院の役割に応じて適切な医療を提供する。	△	新型コロナウイルス感染症の影響や対象疾患患者の増減等により、項目ごとに計画を上回ったもの・下回ったものがあったが、腎臓移植や末梢血幹細胞移植、さい帯血移植の実施件数等は計画を上回った。  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">                         ※○以上の項目/全取組項目                          25/33 (75.8%)                     </div>

### 【実施状況 (主なもの)】

計画を上回ったもの (◎又は○)			計画を下回ったもの (▲又は△)			
項目	病院	計画 → 実績	項目	病院	計画 → 実績	主な理由
神経難病リハビリテーションセンター相談件数	リ八西	265件 → 417件	透析の件数	西宮	4,050件 → 3,028件	外来維持透析患者数の減
腎臓移植の実施件数	西宮	10件 → 18件	へき地医療機関への医師派遣の日数	姫路	13日 → 0日	家島診療所からの派遣要請なしによる実績ゼロ ※令和5年度～要請再開
末梢血幹細胞移植の実施件数	尼崎 がん	9件 → 17件 8件 → 15件	女性総合外来の件数	尼崎	72件 → 21件	対象患者の減

# I より良質な医療の提供

## 項目2 統合再編・建替整備

資料2 P26

目標	評価	説明
<p>はりま姫路総合医療センター及び西宮総合医療センター（仮称）の統合再編整備、がんセンターの建替整備を推進する。</p>	<p>△</p>	<p>入札不調の影響により、西宮総合医療センター（仮称）の建設工事の着工が遅れた。また、建設資材不足等を踏まえ、がんセンターの設計の見直しを行ったため、設計期間が延長となった。 （上記を受け、開院時期を見直し）</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>※○以上の項目/全取組項目 5/7（71.4%）</p> </div>

### 【実施状況（主なもの）】

取組項目	実施状況
<p>はりま姫路総合医療センター</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 開院前に綿密な職員トレーニング、リハーサル等を実施</li> <li>◆ 基本計画に基づき、新病院を開院（R4.5.1）</li> <li>◆ 開院に伴い、ダヴィンチ等の高度医療機器を導入</li> </ul>
<p>西宮総合医療センター（仮称）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 基本計画に基づき、設計を実施したが、入札不調により令和4年度中は建設工事未着手</li> </ul>
<p>がんセンター</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 基本計画に基づき、基本設計をとりまとめたが、建設資材不足等により設計の見直しを行ったため、設計期間が延長（建設工期も見直し）</li> </ul>
<p>尼崎総合医療センター （患者サポートセンター）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 患者サポートセンターを開設（R5.2.27）</li> </ul>

# I より良質な医療の提供

## 項目3 診療機能の効率化

資料2 P27

目標	評価	説明
<p>診療科目の見直しなど、医療ニーズの変化等に適切に対応するほか、クリニカルパスを活用し、良質な医療を効果的かつ効率的に提供する。</p> <p>また、専門センター制やチーム医療の推進等により診療体制の充実を図る。</p>	○	<p>淡路医療センターでは糖尿病・内分泌内科を、はりま姫路総合医療センターでは統合再編に伴い複数の診療科・専門センターを新設した他、クリニカルパス推進対策本部と各病院のパス推進チームの設置によりクリニカルパス推進体制を強化する等、診療機能の効率化に取り組んだ。</p> <p>※○以上の項目/全取組項目 5/5 (100.0%)</p>

## 項目4 臨床研究等の充実

資料2 P28～29

目標	評価	説明
<p>県立病院の医療水準を向上するため、各種の臨床研究を推進した。</p> <p>また、医薬品等の安全性を高めるとともに、医療の質の向上を図るため、治験を推進した。</p>	○	<p>依頼件数の増減等により、受託研究・治験ともに病院ごとに件数が増減したが、全体としては概ね計画どおりに実施した。</p> <p>※○以上の項目/全取組項目 16/20 (80.0%)</p>

### 【実施状況（主なもの）】

計画を上回ったもの（◎又は○）			計画を下回ったもの（▲又は△）			
項目	病院	計画 → 実績	項目	病院	計画 → 実績	主な理由
受託研究の件数	姫路	92件 → 137件	受託研究の件数	粒子線	3件 → 1件	対象患者がいなかったことによる減
治験の件数	こども	16件 → 22件	治験の件数	淡路	2件 → 1件	新規依頼の治験がなかったことによる減

## Ⅱ 安心できる県立病院の実現

### 項目1 地域医療連携の推進

資料2 P30～34

目標	評価	説明
<p>地域医療支援病院及び地域がん診療連携拠点病院等は、その役割を踏まえ、医療機器の共同利用の促進や、地域の医療従事者等への研修、相談、情報提供等を行うとともに、地域連携クリニカルパス等の推進を図るなど、地域医療連携を推進する。</p> <p>また、他の病院及び診療所においても、オープンセミナー等の実施や地域連携クリニカルパス等の推進により、地域医療連携の推進により、紹介率、逆紹介率の維持、向上を図る。</p>	○	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を考慮して研修会や講演会、各種会議等を中止した病院もあったものの、オンラインの活用や感染状況が緩和したタイミングで開催する等して、計画を上回った病院もあり、全体的に概ね計画どおり実施した。</p> <p>※○以上の項目/全取組項目 53/64 (82.8%)</p>

### 【実施状況（主なもの）】

計画を上回ったもの（◎又は○）			計画を下回ったもの（▲又は△）			
項目	病院	計画 → 実績	項目	病院	計画 → 実績	主な理由
がん 子ども 粒子線 実施回数	がん こども 粒子線 神戸陽子	500回 → 630回	神戸大学、長崎大学等 との遠隔病理カンファレン スの実施回数	淡路	420回 → 40回	病理医のスキル向上に より診断困難事例等の 追認依頼件数が激減
研修会（医療従事者 向け）と講演会（地域 住民向け）の回数	姫路	研修会：13回→18回 講演会：1回→16回	医療機器の 共同利用件数	姫路	730件 → 412件	統合再編準備により CT・エコーの利用依頼 （旧製鉄記念広畑病 院実施分）が減
地域医療連携室等 の退院調整件数	全病院 合計	36,686 → 39,736件	紹介率 及び逆紹介率	10病院 ※指定管理3 病院を除く	紹介率：3病院（27.2%） 逆紹介率：4病院（36.4%） が計画を下回った	【コ】受診控え等による 紹介患者の減

## Ⅱ 安心できる県立病院の実現

### 項目2 医療安全対策等の推進

資料2 P35～36

目標	評価	説明
<p>病院局及び各病院が一体となって医療事故の発生防止や院内感染の防止を図る。 また、医療に関する苦情や相談に適切に対応し、医事紛争の発生防止や円満解決に努める。</p>	○	<p>医療安全会議における医療安全対策の検討や、各病院における医療事故及びヒヤリ・ハットの再発防止に向けた方策の実施、感染対策会議の開催等、新型コロナウイルス感染症の影響による医療訴訟ガイドンスの中止を除き、概ね計画どおりに実施した。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto;"> <p>※○以上の項目/全取組項目 9/10 (90.0%)</p> </div>

### 項目3 患者サービスの向上

資料2 P37～39

目標	評価	説明
<p>外来待ち時間の短縮、平均在院日数の適正化、快適な療養環境の確保により患者サービスを向上する。</p>	○	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受けた接遇研修の中止を除き、概ね計画どおり、患者サービスの向上に向けて取り組んだ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto;"> <p>※○以上の項目/全取組項目 12/14 (85.7%)</p> </div>

### 【実施状況（主なもの）】

計画を上回ったもの（◎又は○）			計画を下回ったもの（▲又は△）			
項目	病院	計画 → 実績	項目	病院	計画 → 実績	主な理由
平均在院日数	全病院	各病院で疾患別の在院日数を念頭に適切にベッドコントロールを実施	入院前検査センターにおける入院及び検査説明件数	姫路	11,500件→6,958件	緊急入院患者の割合が高かったことによる説明介入件数の減

## Ⅱ 安心できる県立病院の実現

### 項目4 医療の信頼性の向上

資料2 P40

目標	評価	説明
<p>患者の視点に立ったわかりやすいインフォームド・コンセントやセカンド・オピニオン等を実施する。</p> <p>また、病院運営懇話会等において広く県民等から意見を求め、県民の医療ニーズを病院運営に反映するとともに、患者や家族の立場や心理に十分配慮した接遇やコミュニケーションを行う。また、県民の健康・医療への関心に応じて、公開講座やセミナー、フォーラム等を開催する。</p>	○	<p>患者の視点に立ったわかりやすいインフォームド・コンセントに努めたほか、セカンド・オピニオンや患者の求めに応じたカルテ開示を適切に実施する等、医療の信頼性の向上に資する取組を着実に実施した。</p> <p>※○以上の項目/全取組項目 5/5 (100.0%)</p>

### 項目5 県民等への情報発信の推進

資料2 P41~42

目標	評価	説明
<p>病院によるホームページでの情報発信や広報誌等の定期的な発行、「県民だよりひょうご」等の広報誌により県立病院の情報をわかりやすく提供する。</p>	△	<p>講演会の開催回数について、新型コロナウイルス感染症の影響で全体的には計画を下回った。一方で、広報誌の発行や様々なメディアを活用した情報発信については概ね計画どおり取り組んだ。</p> <p>※○以上の項目/全取組項目 32/41 (78.0%)</p>

### 【実施状況（主なもの）】

計画を上回ったもの（◎又は○）			計画を下回ったもの（▲又は△）			
項目	病院	計画 → 実績	項目	病院	計画 → 実績	主な理由
HPアクセス数 (web広報の充実による施設及び陽子線治療の認知度向上)	神戸陽子	100,000→125,177件	医療関係者向け 粒子線治療 Web講演会	粒子線	19回 → 3回	対象を医師に限定して開催したことによる減

# Ⅲ 持続可能な経営の確保

## 項目 1 経営目標の設定と持続的な経営の取組

資料 2 P43~46

目標	評価	説明
<p>令和4年度は、上半期に新型コロナウイルス感染症の影響を見込むとともに、はりま姫路総合医療センターの開院に伴う患者調整等により一時的な収支悪化が見込まれるが、新型コロナウイルス感染症対応と通常医療との両立を図りながら、民間コンサルを活用した経営再生本部など、各病院と病院局が一体となった経営改善を推進し、持続可能な経営の確保に努める。</p> <p>また、純損益は、姫路循環器病センター建物償却費等を特別損失として計上するため、90億円の純損失を見込んでいる。</p>	<p>○</p>	<p>新型コロナウイルス感染症による病院経営への影響については、診療報酬の増額やコロナ患者受入れに係る病床確保料など、新型コロナウイルス感染症対応のための臨時的な収益により減収分は概ね補填されたが、はりま姫路総合医療センターの開院に伴う患者調整等により一時的に収支が悪化し、経常損益は30億円の赤字となった。</p> <p>純損益は、旧姫路循環器病センターに係る特別償却や旧柏原病院建物撤去費用を特別損失として計上したことにより、85億円の赤字となった。</p> <p>なお、経常損益、純損益ともに計画値を上回ったことから、○評価とする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※○以上の項目/全取組項目 7/7 (100.0%)</p> </div>

### 経常損益・純損益（13病院計）

	R4計画①	R4実績②	対計画 (② - ①)
経常損益	△41億円	△30億円	+ 11億円
純損益	△90億円	△85億円	+ 5億円

# Ⅲ 持続可能な経営の確保

## 項目 2 収益の確保 (1) 患者の受入れ促進等

資料 2 P47~49

目標	評価	説明
診療機能の充実を図るとともに、地域医療連携の推進等により患者の受入れを促進する。	○	<p>地域の医療機関との前方連携・後方連携の充実を図り、患者受入れの促進に向け、概ね計画どおり取り組んだ。</p> <p>なお、コロナ対応と通常医療の両立を促進し、入院患者数は計画を上回ったが、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う受診控えの影響が残り、外来患者数は計画を下回ったため、全体として患者数は計画値を下回った。</p>

※○以上の項目/全取組項目  
12/12 (100.0%)

### 令和4年度延べ患者数 (10病院計 ※指定管理3病院除く、単位：人)

区 分		入院	外来	入院+外来	区 分		入院	外来	入院+外来
延患者数	R3実績①	873,793	1,486,997	2,360,790	新規患者数	R3実績①	69,881	112,278	182,159
	R4当初予算②	1,081,147	1,732,161	2,813,308		R4当初予算②	86,156	131,824	217,980
	R4最終予算③	1,032,645	1,659,372	2,692,017		R4最終予算③	80,563	135,731	216,294
	R4実績④	1,038,167	1,643,201	2,681,368		R4実績④	81,237	131,688	212,925
	対前年 (④-①)	164,374	156,204	320,578		対前年 (④-①)	11,356	19,410	30,766
	対予算 (④-③)	5,522	△ 16,171	△ 10,649		対予算 (④-③)	674	△ 4,043	△ 3,369

## Ⅲ 持続可能な経営の確保

### 項目2 収益の確保 (2) 診療機能に見合う収益の確保等

資料2 P50～52

目標	評価	説明
診療報酬対策本部による診療報酬制度への的確な対応及び施設基準の取得、診療機能の充実、高度医療機器の高稼働、手術件数の増加等により、診療機能に見合う収益の確保を図る。	○	<p>高度医療機器の整備・更新、クリニカルパスの適用促進、入院前検査センターの機能拡充等、全ての項目において概ね計画どおりに取り組んだ。また、診療情報管理士については新規資格取得者が計画を上回った。</p> <p>※○以上の項目/全取組項目 11/11 (100.0%)</p>

### (3) その他の収益の確保

資料2 P53～54

目標	評価	説明
<p>未収金の発生防止と徴収の強化、使用料・手数料の適切な見直しを図り、引き続きその他収入の確保に努める。</p> <p>また、未利用施設については、県有財産等活用推進会議の方針等に従い、売却等を進める。</p>	○	<p>未収金の新規発生率を抑制し、未収金総額は過去最小額となったほか、使用料・手数料の適切な見直し、はりま姫路総合医療センターの開院に伴う姫路医師公舎を廃止等を実施し、その他の収益に確保においては、概ね計画どおりに取り組んだ。</p> <p>※○以上の項目/全取組項目 6/6 (100.0%)</p>

## Ⅲ 持続可能な経営の確保

### 項目3 費用の抑制

資料2 P55～57

目標	評価	説明
<p>診療機能に見合う収益を確保するため、費用対効果の検証に基づく経営資源の有効活用に取り組み、医業収益に対する給与費比率、材料費比率及び経費比率の改善に努める。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>給与費比率</u> 診療密度の向上や患者の受入れ促進等により前年度実績より改善し、計画を達成</li> <li>・ <u>材料費比率</u> 薬品等の低廉な価格での購入等により前年度実績より改善したが、高額な抗がん剤の増加、新型コロナウイルス感染症の影響等により計画は未達成</li> <li>・ <u>経費比率</u> 委託業務の範囲・内容の見直し、高額医療機器の保守・点検一括契約の推進等により、費用抑制に努めたが、はりま姫路総合医療センター開院に伴う経費増等により前年度実績より悪化し、計画を未達成</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">           ※○以上の項目/全取組項目 14/16 (87.5%)         </div>

### 給与費比率・材料費比率・経費比率（10病院計 ※指定管理3病院除く）

	R3実績①	R4計画②	R4実績③	対前年 (③-①)	対計画 (③-②)
給与費比率 (対経常収益比率)	64.5% (48.2%)	64.1% (-)	63.2% (49.7%)	△1.3% (+1.5%)	△0.9% (-)
材料費比率 (対経常収益比率)	35.2% (26.4%)	32.8% (-)	35.1% (27.6%)	△0.1% (+1.2%)	+2.3% (-)
経費比率 (対経常収益比率)	19.5% (14.6%)	19.2% (-)	20.8% (16.4%)	+1.3% (+1.8%)	+1.6% (-)

# IV 安定した医療提供体制の確立

## 項目1 効果的・効率的な組織・人員体制の整備

資料2 P58

目標	評価	説明
<p>病院事業を取り巻く環境の変化や診療報酬基準の改定、診療機能の高度化等に迅速かつ的確に対応し、県民に良質で安心な医療を効果的、効率的に提供していくため、組織・職制の見直しと人員の適正配置を行う。</p>	<p>○</p>	<p>医療情報システム体制整備のため、病院局企画課内に情報戦略班を設置し、各病院の医療情報職を増員した他、はりま姫路総合医療センター開院に向けて、各職種を増員する等、効果的・効率的な組織・人員体制の整備に取り組んだ。</p> <p>※○以上の項目/全取組項目 2/2 (100.0%)</p>

## 項目2 医師確保対策の推進

資料2 P59～60

目標	評価	説明
<p>必要な医師総数の確保や、地域偏在・診療科偏在の解消に向け総合的な医師確保対策を推進する。</p>	<p>○</p>	<p>臨床研修制度・専攻医制度の実施、医師修学資金の付与、各種研修プログラムの実施等、新型コロナウイルス感染症の影響で中止した医師の海外学会研究発表支援を除き、総合的な医師確保に向けて、概ね計画どおりに取り組んだ。</p> <p>※○以上の項目/全取組項目 10/11 (90.9%)</p>

## 項目3 看護師確保対策の推進

資料2 P61～62

目標	評価	説明
<p>人材の確保・育成を図るための取組みを積極的に推進する。</p>	<p>○</p>	<p>看護師採用試験の受験可能年齢を引き上げたほか、特定行為研修修了看護師の養成派遣制度を創設するなど、看護師の確保・育成に向けて、取り組んだ。</p> <p>※○以上の項目/全取組項目 8/8 (100.0%)</p>

## Ⅳ 安定した医療提供体制の確立

### 項目4 専門的人材の充実・確保と人材育成の取組

資料2 P63～64

目標	評価	説明
専門的人材の確保・育成を図るための取組を実施する。	○	<p>職種や階層に応じた研修を実施した他、MBAや神戸大学実践的病院経営マネジメント人材養成プラン（M×M K O B E）の受講を支援する等、新型コロナウイルス感染症の影響で中止した接遇研修を除き、専門的人材の確保・育成に向けて、概ね計画どおりに取り組んだ。</p> <p>※○以上の項目/全取組項目 9/10（90.0%）</p>

### 項目5 働きやすい職場づくり

資料2 P65

目標	評価	説明
働きやすい職場づくりに向けて、超過勤務の縮減や職員自身の健康管理意識の高揚を図るため、継続して以下の取組を実施する。	○	<p>医師の働き方改革については取組の途中段階ではあるが、全体としては概ね計画どおり実施した。</p> <p>※○以上の項目/全取組項目 4/4（100.0%）</p>

### 項目6 経営形態の検討

資料2 P66

目標	評価	説明
令和5年度までは現在の地方公営企業法の全部適用を維持するが、国の制度の見直し等病院事業を取り巻く環境に大きな変化があった場合には、必要に応じて経営形態のあり方についての検討を行う。	○	<p>令和6年度以降の経営形態の検討（次期病院構造改革推進方策の検討と並行実施）を見据え、病院事業を取り巻く環境変化や国及び他団体の動向の把握等を適切に実施した。</p> <p>※○以上の項目/全取組項目 1/1（100.0%）</p>

# IV 安定した医療提供体制の確立

## 項目7 安定的な地域医療の提供

資料2 P67

目標	評価	説明
<p>今後の安定的な地域医療の提供に貢献するため、地域の医療需要や他の医療機関の状況等を踏まえ、各県立病院に求められる医療を提供する。</p>	○	<p>兵庫県地域医療構想に適切に対応していくため、兵庫県保健医療計画（圏域版）を踏まえ、「第4次病院構造改革推進方策」及び「公的医療機関等2025プラン」に定められた県立病院が求められる役割を果たしながら、将来に亘る安定的な地域医療の提供に貢献した。</p> <p style="text-align: right;">※○以上の項目/全取組項目 1/1（100.0%）</p>